

東京新聞

夕刊

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211



放射線

五月二十二日
一度、は虫類の抜け殻をみると、国連が定めたことがあつた。茶色かつたから、日本固有種のカナヘビだ。国際生物多様性の日である。こつたかもしれない。普段だつたら「ぎよつ」として後ずさりしてしまつところだが、多くの動植物が生息するこの広

れに合わせて、五月から六月にかけて全国各地で自然観察会が開かれるという。

私がよく散歩をする新宿御苑は、都心の中で生物多様性を味わう場所としては、絶好の場所である。

広さ五十八鈴、周囲が三・五キロのこの公園は一步中に入ると都心の喧騒を忘れる。およそ二万本あるという木々は、六十五種ある桜をはじめ四季折々楽しむことができる。

生物多様性の日

い公園では、さもありません。思ったものだ。いろいろな生き物があることが自然なのだ。と実感でき



今年「国際生物多様性年」でもあ

る。二〇〇二年に南アフリカのヨハネスブルクで開かれた「持続可能な開発に関する世界サミット」では、世界の指導者たちが、生物多様性損失のスピードを一〇年までに大幅に減速させることを合意している。十月に名古屋で開催される生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)では日本は議長国だ。

多くの人が身近なところで自然とかわりながら、生物多様性の問題に関心を持つようになることを願っている。(池上 清子「国連人口基金東京事務所長」)